



一般社団法人社会情報学会 (SSI)

〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 1-12-17

三鷹ビジネスパーク SOHO プラザ A-301

Tel /Fax : 0422-54-4633 e-mail : office@ssi.or.jp

社会情報学会 (SSI) 会費等振替口座 (ゆうちょ銀行振替口座)

- ・加入者名 (一社) 社会情報学会
- ・口座番号 00150-4-608268

目次

- I 2012年度第3回一般社団法人社会情報学会理事会議事録 (2012年9月16日開催)
- II 2012年度第4回一般社団法人社会情報学会理事会議事録 (2012年12月15日開催)
- III 委員会報告
- IV 2013年度年社会情報学会 (SSI) 学会大会
- V 選挙管理委員会
- VI 事務局より

I 2012年度第3回一般社団法人社会情報学会理事会議事録(2012年9月16日開催)

1. 開催年月日及び時刻 2012年9月16日(日)、11:40~13:00
2. 開催場所 群馬大学 教養教育 GB棟 GB203 教室
3. 出席理事 伊藤賢一・伊藤守・太田敏澄・河又貴洋・栗川隆宏・黒葛裕之・五藤寿樹・桜井成一朗・炭谷晃男・高田洋・田中秀幸・富山慶典・廣松毅・正村俊之・横山正人・吉田寛
4. 欠席理事 和泉潤・遠藤薫・小郷直言・木村忠正・是永論・西垣通
5. 出席監事 藤井史朗
6. 事務局 今田寛典
7. 審議事項
 - 第1号議案 2012年度第2回理事会議事録
 - 第2号議案 入会
 - 第3号議案 仮会員取扱い細則
 - 第4号議案 学生会員取扱い細則
 - 第5号議案 会員集会規則
 - 第6号議案 研究倫理綱領
 - 第7号議案 個人情報保護に関する規則
 - 第8号議案 支部規則
 - 第9号議案 慶弔規則
8. 報告事項・その他
 - (1) 副会長の会長職務代行順序
 - (2) 2012年度社員総会議事録
 - (3) 2012年度会員状況・納入状況
 - (4) 2012年度収支状況
 - (5) 総務委員会報告
 - (6) 表彰委員会報告
 - (7) 学会誌編集委員会報告
 - (8) 渉外委員会報告
 - (9) 研究活動委員会報告
 - (10) 国際委員会報告
 - (11) 中部支部報告
 - (12) スケジュール案
 - (13) 選挙管理委員選出
 - (14) その他

開会(11時40分)

事務局長が理事総数22名中16名の出席により定款第46条に定める定足数を満たしているため理事会が成立していることを確認した。議長は定款45条に定める伊藤守代表理事。書記は事務局今田。事務局長および議事提案者による議案の内容についてそれぞれの説明があった。

審議概要

- 1) まず、2012年度第2回理事会議事録の承認が求められ、理事会終了前に承認された。
- 2) 事務局より、15名の入会が提議された。ただし、1名は、第2回理事会で所属について再度審議することが求められていた。事務局が入会申込者に所属について回答を求め、その回答について説明がされた。特別な事情を考慮して正規の所属ではなく、サブの所属で入会することが承認された。以下15名全員の入会が承認された。

福田朋実 石田剛朗 大嶋啓太郎 藤原 整 谷口慎一郎 秋谷直矩 太田秀夫 佐久間勲

日吉昭彦 木村 純 服部孝章 村瀬博昭 米倉達広 水野義之 行実洋一

3) 総務委員会委員会より仮会員入会細則案が提議された。表彰委員会から学位論文賞や各種賞の推薦者の資格を正会員とするので、仮会員も推薦者になることができるようにできないか。ただし、理事会で入会が承認されることを条件として細則に明記してほしい。これについては総務委員会で検討し、次回の理事会で報告し、審議する。

仮会員の認定については会長が行い、直近の理事会で入会承認の審議を行う。メーリングリストによる理事審議は行わない。学会大会や学会誌への論文投稿など緊急を要する者に対する措置である。仮会員は会費相当額を納入しなければならない。理事会で入会が承認されない場合もある（仮会員取扱い細則案第5条2項）。

メーリングリストによるメール審議は従来通り行う。この場合、入会が承認された後に、会費を納入する。

仮会員取扱い細則案が承認された。なお、第2条第3項に仮会員の賞推薦資格について加筆し、次回の理事会に提議する。

4) 総務委員会より、正会員が学生会員に身分移行した場合の学生会員取り扱い細則案が提議され、承認された。

5) 総務委員会より、会員集会規則案が提案された。

第5条から第8条までの条番号を第4条から第7条と修正する。また、新第5条は第2条で記されている内容と重なるので、新第5条を削除する。

第1条から第6条から成る会員集会規則案が承認された。

6) 審議の優先順位を考慮し、第8、9号議案を審議する。第6、7号議案は次回理事会で審議する。

7) 総務委員会より、支部規則案が提案され、承認された。

これまで、JASI、JSIS がそれぞれの支部が規則を持ち、活動してきている経緯があり、当面は既存の支部規定を尊重することが申し合わせられた。

8) 総務委員会より、慶弔規定案が提議された。

第4条一の慶事は会員とする。同二は「・・・贈る追悼文を掲載する」を「・・・贈り、追悼文を掲載する」と修正する。

以上の2点を修正し、慶弔規定案が承認された。

9) 議案6号・7号は次回の理事会で審議するが、特に、研究倫理綱領について意見が出された。学問分野によって考え方が異なるので、会員にパブリックコメントを求めることが望ましい。

報告概要

1) 伊藤会長より、副会長の会長職務代行順位を廣松副会長、遠藤副会長とすることが報告された。

伊藤会長は群馬大学長との懇談のため途中退席。退席後は、廣松副会長が議長となった。

2) 2012年度社員総会議事録が資料として示され、報告された。

3) 事務局より2012年度会員状況・会費納入状況が報告された。

10月10日現在の会員総数（704名）、会費納入状況（納入率は正会員：85.6%、学生会員：75.0%、団体会員：100%）

4) 2012年度収支状況

資料に基づき、事務局より2012年9月13日現在の2012年度一般社団法人社会情報学会事業会計予算及び収支が報告された。

5) 総務委員会報告

資料に基づき、総務委員会より2012年度第3回（一社）社会情報学会総務委員会が9月13日（木）、早稲田大学14号館803号室で開催され、入会、選挙管理委員選出、仮会員取扱い細則、学生会員取り扱い細則、会員集会規則、研究倫理綱領、個人情報保護に関する規則、支部規則、慶弔規則等を審議し、第3回理事会に提議したことが報告された。

6) 表彰委員会報告

資料に基づき、表彰委員会より報告された。

学会功労賞、社会貢献賞、国際貢献賞、優秀文献賞、優秀論文賞、論文奨励賞、大学院学位論文賞の募集を行い、推薦のあった候補について、それぞれ選考を行った。なお、社会貢献賞、国際貢献賞、論文奨励賞についての推薦はなかった。

表彰委員会における選考結果

- (1)学会功労賞：島田達巳、(2)優秀文献賞：関谷直也、(3)優秀論文賞：今年度該当なし、(4)大学院学位論文賞 博士論文の論文賞：大井奈美、博士論文の奨励賞：杉浦昌、 修士論文の論文賞：堀川裕介、修士論文の奨励賞：高木聡一郎、堀江真弘

社会情報学会 表彰規則（案）を策定した。

7) 学会誌編集委員会報告

資料に基づき、学会誌編集委員会より報告された。

(1) 学会誌発行状況

- ・和文誌の創刊号（『社会情報学』第1巻1号）発行
- ・次号の和文誌（『社会情報学』第1巻2号）の編集中
- ・英文誌（Journal of Socio-Informatics Vol.5 No.1）が9月末から10月上旬発行予定

(2) 「研究」の審査基準

「研究」は、「原著論文」とは異なるものの価値的には変わらないという位置づけとする。

(3) 次号以降の企画

8) 渉外委員会報告

渉外委員会より、資料に基づいて委員会活動が報告された。

9) 研究活動委員会報告

資料に基づき、研究活動委員会より報告がされた。

10) 国際委員会報告

資料に基づき、国際委員会から報告された。

特に、12月14日から開催される JPAIS のワークショップを SSI が共催することが報告された。費用に関する支援は特になし。

11) 支部報告

中部支部より、資料に基づき支部報告がされた。

12) スケジュール案

事務局より、資料に基づき今後のスケジュール案が報告された。次回理事会は12月15日、中央大学駿河台記念館で開催する。

13) 選挙管理委員選出

評議員および役員候補者選挙管理委員会および選挙管理委員の選出について選挙管理規則に従った選出手順を確認した。会長が3名を指名し、12月15日の第4回理事会で報告し、承認をうる。なお、評議員と役員候補者の選挙管理委員会および委員は兼ねることとする。

14) その他

15) 閉会（12時55分）

副会長より13時より会員総会が開催されるので、理事会を閉会すると通知された。

以上、理事会の議事の経過並びに結果が正確であることを証するために、議事録を作成し議長及び議事録署名人はこれに署名押印する。

平成24年10月29日

議 長 伊藤 守 印

議事録署名人 遠藤 薫 印

議事録署名人 廣松 毅 印

議事録署名人 藤井 史朗 印

II 2012年度第4回一般社団法人社会情報学会理事会議事録(2012年12月15日開催)

1. 開催年月日及び時刻 2012年12月15日(土)、15:00~18:00
2. 開催場所 中央大学駿河台記念館 650室
3. 出席理事 伊藤賢一・伊藤守・遠藤薫・太田敏澄・栗川隆宏・黒葛裕之・五藤寿樹・桜井成一朗・炭谷晃男・西垣通・田中秀幸・廣松毅・正村俊之・横山正人・吉田寛
4. 欠席理事 和泉潤・小郷直言・河又貴洋・木村忠正・是永論・高田洋・富山慶典
5. 出席監事 藤井史朗
6. 欠席監事 水鉋揚四郎
7. 事務局出席 今田寛典・和泉恵子
8. 審議事項
 - 第1号議案 入会
 - 第2号議案 選挙管理委員会
 - 第3号議案 仮会員取扱細則・改定案
 - 第4号議案 会長および副会長選出規則
 - 第5号議案 研究倫理綱領
 - 第6号議案 個人情報保護に関する規則
 - 第7号議案 表彰規則
 - 第8号議案 第2回情報政策研究会共催
 - 第9号議案 若手企画専門委員会
 - 第10号議案 ネットワーク委員会
 - 第11号議案 日本学術会議若手アカデミー委員会
 - 第12号議案 その他
9. 報告事項・その他
 1. 2012年度第3回理事会議事録
 2. 2012年度会員状況・納入状況
 3. 2012年度収支状況
 4. 総務委員会報告
 5. 研究科活動委員会
 6. 将来委員会
 7. 表彰委員会
 8. 国際委員会
 9. 学会誌編集委員会
 10. 渉外委員会報告
 11. 中部支部報告
 12. スケジュール案
 13. その他

開会(15時)

事務局長が理事総数22名中15名の出席により定款第46条に定める定足数を満たしていることで理事会が成立していることを確認した。議長は定款45条に定める伊藤守代表理事。書記は事務局今田。事務局長および議事提案者による議案の内容についてそれぞれの説明があった。

議事概要

- 1) 事務局より、8名の入会が提議された。以下の8名全員の入会が承認された。

植田一博 木村雅史 佐藤美樹代 境真良 遊橋裕泰 文健 田名部元成 丸小拓将

- 2) 会長から、評議員選挙規則第8条の規定により、評議員選挙管理委員に黒葛裕之氏、是永論氏、

桜井誠一郎氏を指名したい旨の提議があり、これを承認した。

会長から、役員候補者選出規則第 8 条の規定により、役員候補者選挙管理委員に黒葛裕之氏、是永論氏、桜井誠一郎氏を指名したい旨の提議があり、これを承認した。

なお、評議員選挙管理委員会および役員候補者選挙管理委員会を開催し委員の互選により、委員長に桜井誠一郎氏が選出された。

会長から、役員候補者選出規則第 15 条第 2 項の規定により、役員候補者推薦委員に五藤寿樹理事および西垣通理事を指名したい旨の提議があり、これを承認した。

なお、役員候補者選挙管理委員会の委員長は、役員候補者選出規則第 15 条第 3 項の規定により伊藤守会長である。

役員候補者推薦委員会は、会長、副会長、会長推薦西垣通・五藤寿樹とすることが承認された。

会長・副会長選挙管理委員会は、田中秀幸、炭谷晃男とすることが承認された。

3) 総務委員会委員会より第 3 回理事会で承認された仮会員取扱細則第 2 条の第 3 項に仮会員の賞推薦資格について加筆した仮会員取扱細則案が提議され、細則案が承認された。

4) 総務委員会より、会長および副会長選出規則案、評議員選挙規則案が提議された。一部加筆訂正があり、規則案が承認された。

会長から、会長および副会長選出規則第 7 条の規定により、選挙管理委員に田中秀幸氏および炭谷晃男氏を指名したい旨の提議があり、これを承認した。

5) 総務委員会より、研究倫理綱領が提案された。1 月末までに総務委員会へ意見を提出することとなった。

6) 総務委員会より、個人情報保護に関する規則が提案された。1 月末までに総務委員会へ意見を提出することとなった。

7) 総務委員会より、一般社団法人社会情報学会表彰規則（案）が提議された。一部修正して承認された。

なお、大学院学位論文賞・奨励賞および研究発表奨励賞の対象者は学生会員または正会員ではないかとの意見が出された。これについては検討課題とした。新進研究賞(仮称)については 2012 年度内に再検討を行うことを確認した。

8) 第 2 回情報政策研究会

島根大学との共催について承認した。

9) 研究活動委員会内・若手企画専門委員会より、社会貢献・若手育成実践の特別企画が提議され承認された。渉外委員会にも通知するようにとの意見が出された。

10) ネットワーク委員会より

五藤理事より資料に基づき、ネットワーク委員会の設立、構成委員等が提起、それを承認した。

今後、HP および ML サーバーの運用・管理については、事務局からネットワーク委員会へ移行する。

11) 事務局より、日本学術会議若手アカデミー委員会の国内若手研究者ネットワークへの参加とアンケート協力の依頼について提議された。本学会若手企画専門委員会に一任することが承認された。

報告概要

1) 事務局より、2012 年度第 3 回理事会議事録が報告された。

2) 事務局より、事務局より 2012 年度会員状況・会費納入状況が報告された。

12 月 14 日現在の会員数総数（702 名）、会費納入状況（正会員：91.1%、学生会員：92.7%、団体員会員：100%）

3) 事務局より、資料に基づき 2012 年 12 月 14 日現在の 2012 年度一般社団法人社会情報学会事業会計予算及び収支が報告された。

4) 総務委員会報告

資料に基づき、総務委員会より 2012 年度第 4 回（一社）社会情報学会総務委員会が 12 月 14 日(金)、

早稲田大学 16 号棟 302 で開催され、入会、選挙管理委員会、仮会員取扱細則・改定案、会長および副会長選出規則、研究倫理綱領、個人情報保護に関する規則、表彰規則等を審議し、第 4 回理事会に提議したことが報告された。

5) 研究科活動委員会

資料に基づき、研究活動委員会より報告された。

第 2 回定例研究会が、3 月 12 日 14～16 時、東京大学大学院情報学環 6 階会議室で開催される。

第 2 回情報政策研究会が、2 月 2 日 14～16 時、東京大学工学部 2 号館 92B 教室で開催される。終了。

6) 将来委員会

資料に基づき、将来委員会より報告された。

7) 表彰委員会

資料に基づき、表彰委員会より報告された。

8) 国際委員会

資料に基づき、国際委員会より報告された。

9) 学会誌編集委員会

資料に基づき、学会誌編集委員会より報告された。

社会情報学 2 号を 2012 年 12 月発行

社会情報学 3 号を 2013 年 3 月発行

Journal of Socio-Informatics Vol.6, No.1 の応募状況と投稿締め切りの延長が報告された。

10) 渉外委員会報告

資料に基づき、表彰委員会より報告された。

若手企画委員会より、学会大会で国際および企業・自治体にブースを提供し、学会と情報交流をしたいとの意見が出された。

11) 支部報告

資料に基づき、中部支部より報告された。

12) スケジュール案

資料に基づき、事務局よりスケジュール案が報告された。

13) その他

2013 年度学会大会は、9 月 13・14・15 日早稲田大学で開催される。

2013 年度社員総会は、6 月 8 日、又は 15 日に開催される予定。

次回の理事会は 3 月 16 日中央大学駿河台記念館で開催される。

平成 25 年 1 月 30 日

議 長 伊藤 守 印

議事録署名人 遠藤 薫 印

議事録署名人 廣松 毅 印

議事録署名人 藤井 史朗 印

Ⅲ 委員会報告

Ⅲ-1 総務委員会

総務委員会委員長 廣松毅

1. 2012年度第4回（一社）社会情報学会総務委員会

- 1) 日時：2012年12月14日(金)、14:00～16:30
- 2) 会場：早稲田大学14号館803号室
- 3) 出席者：廣松毅、黒葛裕之、今田寛典、和泉恵子
- 4) 審議事項
 - 第1号議案 入会
 - 第2号議案 選挙管理委員選出
 - 第3号議案 仮会員取扱い細則
 - 第4号議案 学生会員取り扱い細則
 - 第5号議案 会員集会規則
 - 第6号議案 研究倫理綱領
 - 第7号議案 個人情報保護に関する規則
 - 第8号議案 支部規則
 - 第9号議案 慶弔規則

5) 報告事項・その他

- (1) 2012年度第2回総務委員会議事録
- (2) 2012年度会員状況・納入状況
- (3) 2012年度収支状況
- (4) スケジュール案
- (5) その他

議事概要

- 1) 入会申込者については、前回保留とした谷口慎一郎氏を理事会にて再協議することとした。
- 2) 12月中旬、第1回選挙管理委員会開催を予定、1月1日公示。
管理委員会委員については会長指名5名以内を理事会承認。
- 3) 仮会員取扱規則を理事会へ提案することとした。
- 4) 学生会員取扱細則を理事会へ提案することとした。
- 5) 会員集会規則を理事会へ提案することとした。
9月16日会員集会についての公示は、会場掲示、HP掲載とする。
- 6) 研究倫理綱領を理事会へ提案することとし、研究活動委員会、学会誌編集委員会と協同で進めることを確認した。
- 7) 個人情報保護に関する規則を理事会へ提案することとした。
- 8) 支部規則案を理事会へ提案することとした。
- 9) 慶弔規則案を理事会へ提案することとした。
祝意または弔慰の基準についての文言は再検討。
- 10) 五藤委員より学会ロゴとサーバーについて提案があった。ロゴについては継続協議事項とした。

報告概要

- 1) 会費納入状況を確認した。
 - 2) 収支状況を確認した。
 - 3) 今後のスケジュールを確認した。
- 次回は3月15日、会場は早稲田大学。

III-2 学会誌編集委員会

学会誌編集委員会委員長 遠藤薫

第4回 社会情報学会 学会誌編集委員会

日時：2012年12月15日（土） 11:00-12:00

場所：中央大学駿河台記念館 650 会議室

出席者（敬称略）：

遠藤薫〔編集委員長〕（学習院大学）、伊藤賢一（群馬大学）、岩井淳（群馬大学）、岡田勇（創価大学）、北村順生（新潟大学）、五藤寿樹（日本橋学館大学）、櫻井成一郎（明治学院大学）、橋元良明（東京大学）、山本佳世子（電気通信大学）、吉田寛（静岡大学）

報告事項

1. 学会誌発行状況

北村委員と岡田委員より、和文誌『社会情報学』第1巻2号の準備が印刷段階に入っていることについて説明があった。また、櫻井委員より、2013年発行予定の英文誌 *Journal of Socio-Informatics* Vol.6 No.1 の準備で、投稿件数が2件に留まりメール審議によりメ切を1月6日(日)に延長した点について、現在原稿を募集中であることのご説明があった。*Journal of Socio-Informatics* Vol.5 No.1 は、2012年9月に発行済みである。

2. 編集委員会に関わるネットワーク委員会からの報告

12月8日にネットワーク委員会が開催され、学会誌編集委員会から服部委員が参加された。服部委員がHP（学会誌編集委員会の担当箇所）を作成される。また、ソーシャルメディアの運用が開始される。学会誌の掲載論文へのコメント等がアップされるようになる可能性があり、検討が行われている。

3. 学会誌の書店販売等

紀伊國屋から学会誌の販売に関する問い合わせがあり、総務委員会の審議の結果として掛け値なしでの販売とした点について、遠藤編集委員長よりご説明があった。また、東京大学情報学環図書館から学会誌の寄贈依頼があり、メール審議に基づき、他の例に倣い寄贈はお断りして年間購読を依頼した点について、併せてご説明があった。

審議事項

1. 前回議事録の了承

2. 査読状況（2012年9月以降）

第3回学会誌編集委員会（2012年9月）以降の和文誌の査読の経緯と現在の査読状況に関して、以下のご報告があり、それぞれ了承された。

1) 北村委員と岡田委員より、和文誌の査読状況について報告があった。16投稿原稿のうち8件で最終判定があり、残り8件が審査中である。審査中原稿の中には投稿者の修正や査読者の審査が期限を越えて滞っているものがあり、各ケースについて督促中である。

2) 五藤委員より、JASIの投稿原稿の積み残しが1件まだ残っていることについて報告があった。やはり査読者の審査が期限を超えている問題があり、督促中である。

また、今後の第1巻3号への引き継ぎに関連して今後の投稿受付手順を検討した。結論として、まず2号から3号への編集長間での引き継ぎが終了した段階で岡田委員からメーリングリストでアナウンスを行い、それ以降は、3号を担当する伊藤委員と岩井宛に櫻井委員より投稿原稿について通知することとした。

3. 和文誌における「研究」の英訳ならびに査読論文であることの証について

「研究」の英訳を *Study* とした点を確認した。また、査読付きの採録であることを明示するため、今後は、採録論文の扉の部分に受付日と採択日の記載、また複数の査読者によって採択された論文であることの記載を加えることとした。

4. 判定が分かれた場合の査読手順

3名の査読者の判定で2人がB以上、1人がDとなった場合の決定手順について検討した。特に、案

1「査読者を立てずに、委員会判断として修正依頼をする」と案2「形式的に第四査読者を立てて、第4査読者の判断を加味して委員会判断をする」の2案を検討し、案1の手続きとすることとした。案1の手続きの一部として、委員会としての判断の際に査読担当者の評価を伺うことはある。また、この判断の際、D判定の評価に関する情報提供は査読担当者の判断に委ねることとした。

5. 和文誌第一巻4号の編集長

和文誌第一巻4号の編集長は、吉田寛委員と服部委員に依頼することとした。

6. 投稿受付台帳（様式1）の改訂提案について

より詳細な記録を残せるようにするため、投稿受付台帳（様式1）の改訂方法を検討した。結論として、「査読者名」、「査読結果」、「査読委員会決定」を記載していた欄に、今後は「査読依頼日付」、「査読期日」、「査読到着日付」についても併せて記載できるように改定することとした。

7. 学会論文集の採録原稿を著者がHP掲載する場合等の手続きについて

和文誌、英文誌、あるいは学会大会研究発表論文集の掲載原稿を、著者が自分のHPにアップする（あるいは関連のリンクを張る）等の場合の手続きについて検討した。HP以外の書籍収録の場合等にも関連する問題と思われることから、一般的な表現で「URL等、掲載の容態についてお伝え下さい」という旨の依頼をすることとした。報告されたデータの保存方法は今後検討することとした。

8. 学会誌PDFデータの保存と取り扱い

北村委員より、第一巻2号の原稿のPDFファイルを送るよう出版社に依頼中であることが報告された。恐らく無料と見込まれている。関連して、以下の方針を決定した。

1) 先行する第一巻1号のPDFデータも送るよう出版社に依頼すること。

2) 入手したPDFデータは学会HPのコンテンツとして保存し運用することになると見込まれるが、この点はネットワーク委員会の問題として審議するよう依頼すること。

9. 投稿論文が先行原稿と類似する場合の対応

投稿論文が先行原稿と類似するとは、特に先行原稿が審査中の段階で主題等に共通点のある次の原稿が投稿される状況である。この状況への対応方法を検討し、後続原稿の引用文献欄に「査読中」の原稿として先行原稿に関する記載が含まれるべきであることを確認した。また、この点を含めて後続原稿の査読が適切に行われるよう、まず編集長が査読担当者に状況を伝え、さらに査読担当者が各査読者に対して文献の引用について注意して査読を行うよう依頼することとした。

10. 別刷りの部数について

『社会情報学』投稿要領の第10項目（学術論文の別刷り）に「学術論文の別刷り（50部単位）は、著者の希望により作成する。その料金は、実費とする。なお、別刷り料金の請求は、学会誌編集委員会の依頼により学会事務が行う。」とある。この点に関連し、以下の審議を行った。

1) 執筆者に希望部数を問う手続きとして、様式7a（採択決定）に希望部数を問う項目を追加するかどうかを検討した。ただ、追加した場合でも後ほど希望部数を改めて確認する必要があるように見込まれたため、様式の変更は見送った。

2) 今後は、申込用紙等で希望部数を確認して取りまとめ、編集委員会から印刷所に一括して発注することとした。発送、請求については基本的に印刷所に依頼することとした。（また、請求手順の変更等、現在の投稿要領の記載を変更することになるが、この修正は編集委員会内の審議のみで決定できることを確認した。）

11. 様式の追加について

原著論文として投稿された原稿が、原著論文としては「D」評価（不採択）となったが、研究としては「B」評価（修正意見付き仮採択）となった場合等、投稿時の原稿種別と異なる原稿種別での査読結果を通知する場合の書式がこれまで未定であった。これらのケースに対応するため、新たに9a, 9b, 9c, 9dの様式を追加することとした。いずれも「投稿原稿の審査結果について（報告）」の表題で、区分は以下の通りである。

1) 「様式9a」：原著論文としては「D」評価（不採択）となったが、研究としては「B」評価（修正意

見付き仮採択) となった場合

2) 「様式 9b」: 原著論文としては「D」評価 (不採択) となったが、研究としては「C」評価 (再査読) となった場合

3) 「様式 9c」: 研究としては「D」評価 (不採択) となったが、原著論文としては「B」評価 (修正意見付き仮採択) となった場合

4) 「様式 9d」: 研究としては「D」評価 (不採択) となったが、原著論文としては「C」評価 (再査読) となった場合

12. その他

『社会情報学』の書式に関して、各原稿における研究助成の記載箇所等については、今後の検討事項とした。

13. 次回日程

次回の学会誌編集委員会は、2013 年 1 月 18 日 (金) 18 時より、Skype を使いオンラインで行うこととした。

III-3 渉外委員会

渉外委員会委員長 遠藤薫

2012 年度第 2 回渉外委員会議事録

日時: 2012 年 12 月 15 日 12 時~13 時

場所: 中央大学駿河台記念館 350 室

出席者 (敬称略、五十音順): 遠藤薫、五藤寿樹、桜井成一郎、平田和久、吉田寛

審議事項

1) 前回議事録の確認

前回議事録が承認された。

2) 新委員について

若手からの積極的な発言を期待して、平田和久氏 (京都大学) に新たに委員会に参加していただくことを承認した。

企業、自治体との連携に詳しい五藤寿樹氏 (日本橋学館大学) にも新たに委員会に参加していただくことを承認した。(理事会報告済み)

3) 広報について (ネットワーク委員会)

渉外委員会ネットワーク担当 (SSI ネットワーク委員会) の吉田寛委員から、12 月 8 日に開催されたネットワーク委員会の報告をいただいた。

ネットワーク委員会と渉外委員会との業務の切り分けについて、ネットワーク委員会では各委員会から提供された情報をネットに掲載する部分を担当し、その他の広報に関わる企画、ネット以外の媒体に関する広報については、渉外委員会の担当としたいとのネットワーク委員会からの申し入れがなされた。渉外委員会はこれを了承した。

4) SSI サイトのコンテンツについて (ネットワーク委員会)

同じくネットワーク委員会から、ネットにアップする渉外委員会からのコンテンツについて、質問があった。渉外委員会では、SSI と外部との連携について、主催委員会からレポートなどの提供を受け、学会内外に学会活動をアピールするようなコンテンツをネットワーク委員会に委託することが承認された。

5) 今後の活動

渉外委員会の活動として、他学会との連携だけでなく、企業や自治体、官公庁などとの連携についても、積極的に考えていく方向で合意した。

その計画として、2013 年度全国大会 (2013 年 9 月 13~15 日@早稲田大学) における、a.国際 WS の開催、b.企業・自治体などのブースの招致、c.台湾の学会との連携、などについて話し合われた。

とくに、a、bに関する詳細を以下に記す：

a. 2012年度大会において平田委員が中心となって開催した国際WSの経験を踏まえ、2013年度大会でも、SNSなどを介して、海外からの参加者を募り、国際WSを開催する。ただし、予算の手当をどうするかが問題。科研その他の助成に積極的に応募する必要あり。また、国際WSなどの成果と英文誌との連携についても議論された。

b. 平田委員から「京都国際マンガ・アニメフェア」を例に、企業ブース、自治体ブースの招致を行ってはどうかとの提案がなされ、賛同された。この件については、理事会承認を経た上で、渉外委員会メンバーが積極的に外部に働きかけていくことが合意された。（後述付記の通り、理事会承認済み）。

報告事項

1) 来年度大会における海外との連携

2) 2012年12月16日 九州・沖縄支部での共催シンポジウム（共催：地元博物館、情報通信学会及び公益事業学会）

3) 社会学系コンソーシアム・シンポジウムにパネリストとして参加予定（2013年1月27日）

次回渉外委員会開催予定

SSI理事会の日程と合わせて、2013年3月16日に開催予定（詳細は未定）

その他、必要に応じて、オンラインでの報告・審議を行う。

【付記】上記事項については、この後開催されたSSI理事会において、すでに書面による報告が提出されている事項以外にも、口頭で報告され、了承された。

オンライン審議：他学会英文誌論文募集告知に関する手続きについて（2013年1月9日）

他学会からの英文誌論文募集告知の手続きに関して、今後、

1) 書面（メール）によって事務局に申請（書式は特に設定しない）

2) 渉外委員会で審議

3) 審議の結果認められれば、事務局から会員に情報をメールで送付

という手順で行うこととした。

III-4 研究活動委員会

研究活動委員会委員長 正村俊之

1. 事業報告

(1) 定例研究会専門委員会

第1回定例研究会報告

日時：2012年11月24日（土）15:00～18:00

場所：立教大学 12号館 第一会議室

テーマ：「クライシスの社会情報学—3.11以後の社会情報学の課題」

報告者：福田 充（日本大学）

駒橋 恵子（東京経済大学）

討論者：高橋 徹（中央大学）

司会：是永 論（立教大学）

参加者：12名

本研究会は、現代社会が直面する様々な危機を背景として、危機において日常と異なる社会情報過程に対処する可能性から、危機における社会情報過程は、いったいいかなる特徴をもっているのか。またそれは、その後の社会情報の処理にどのようなインパクトを残すのか、そこから我々は何を学ぶことができるか、といった問題意識により企画された。

第一報告者の福田会員からは、平常時のリスク・コミュニケーションから緊急時におけるクライシス・コミュニケーションへの転換という観点から、東日本大震災において、政府や自治体が発する大津

波警報や、原発事故における避難指示などの災害情報が、どのようなメディアを通じてどのように住民に伝わったのかについて、現地でのフィールド調査および質問紙調査での結果が中心に報告された。

第二報告者の駒橋会員からは、事件発生時における企業のステークホルダー（利害関係者）とのコミュニケーションについての広報論の観点による分析をもとに、東日本大震災における企業の危機対応について BCP（Business Continuity Plan）や被災地支援の意思決定などの点を中心にヒヤリング調査の結果が中心に報告され、企業文化による多様な情報過程のあり様が指摘された。

両報告の後、討論者の高橋会員からの、①リスク②クライシスそして③ポスト・クライシスという総合的な視点による、リスクの範囲の合理的な形成、クライシス時における受け手の行動、ポスト・クライシスにおける想定の見直しといったポイントを受けて、報告者およびフロアとの議論が展開した。

クライシス・コミュニケーションという観点に依拠しながら、緊急時における受け手の個人反応的な情報対応および企業としての組織構造的な情報対応から、情報過程のグローバル関係への波及までにわたり、多元的・包括的に社会情報過程を考察する理論的な可能性が示された有意義な研究会であった。

（文責：是永論）

（2）情報政策研究会専門委員会

第1回情報政策研究会

日時：平成24年12月3日（月）16:00～18:00

場所：東京大学（本郷キャンパス）工学部2号館92B教室

テーマ：『ミッシングリンクーデジタル大国ニッポン再生ー』

講師：谷脇 康彦 総務省官房審議官（情報流通行政局担当）

司会：岡本 剛和 専門委員（東京大学）

参加者：19名（講師を除く）

講師（谷脇 総務省官房審議官）により「霞ヶ関からの緊急提言」として今夏発刊された『ミッシングリンクーデジタル大国ニッポン再生』（東洋経済新報社）において、「日本の情報通信産業を分断する5つのミッシングリンク」が指摘されていたが、講師からその背景・問題意識等の詳細について概要以下のような説明を受けた。

ミッシングリンク1 機器とサービス

モノのサービス化の進展、モノ作りとサービス作りの連携の必要性

ミッシングリンク2 供給者と利用者

供給者と利用者のコラボレーション（デジタルエコシステム）の必要性

ミッシングリンク3 情報通信産業と他産業

オープンイノベーションの必要性

ミッシングリンク4 国内市場と海外市場

例えば、超高齢社会におけるICT利活用促進とその海外展開の推進の必要性

ミッシングリンク5 官と民

例えば、クラウドサービスに関する国際的コンセンサス作りの必要性

以上1時間半の講演、その後30分の活発な質疑応答を行った後、研究会を終了した。参加者にとって、我が国の情報通信政策が抱える問題点についての理解が更に深まるものとなった。

（文責：岡本剛和）

第2回情報政策研究会

日時：2013年2月2日 14:00～16:00

場所：東京大学工学部2号館92B教室

「オープンソースと地域情報化政策の展開」

報告者とテーマ

報告者 島根大学法文学部教授 野田哲夫

テーマ オープンソース：集合知の活用によるビジネスモデルの展開

報告者 株式会社インターネット・イニシアティブ 高地圭輔

テーマ 自治体クラウドとオープンソース

報告者 島根大学法文学部特別研究員 谷花佳介

テーマ オープンイノベーションの経済効果と地域情報産業振興策

私（野田）と谷花氏からは、島根大学で進めていますオープンソースの社会科学面からの研究成果を基に、オープンソースの開発とビジネスモデルの成立に関する研究の概観と、オープンソースの活用だけでは直接には地域産業の振興にはつながらない課題などが実証データを基に発表されました。また高地氏からは自治体クラウドの持つメリットと、東日本大震災以降クラウドを進める自治体が増え、小規模自治体で進んでいる点を具体例も併せての発表がありました。いずれも地方の、特に小規模の自治体でコスト削減やベンダーロックインの解除、そして産業振興を進める取組とその課題であり、会場からも多くの意見が寄せられて白熱した議論が行われました。

今後、社会情報学からもこの分野でのさらなる理論的・実証的な研究が求められることを痛感しました。参加者は、開始時 18 人、最大時 22 人、最終時 18 人。

（文責：野田哲夫）

（3）若手企画研究会専門委員会

研究活動委員会の若手企画専門委員会は、2012 年の学会大会において、「若手（BJK）カンファレンス」と「英語ワークショップ」の 2 つの企画を実施しました。

①「若手（BJK）カンファレンス」

これまで実施されてきたプレカンファレンスを発展的に継続したものです。2012 年の大会では、テーマを「研究活動支援ツールとしての SNS：利活用ための理解と可能性の検討」とし、国内外からさまざまな立場の登壇者を会場の群馬会館に迎え、40 名超の参加者とディスカッションしました。

Twitter や Facebook など数多くの SNS が存在する昨今、研究情報の発信・収集のみならず、研究職としてのキャリアアップや人脈形成、研究プロジェクトへの参画などの観点で、SNS を積極的かつ効果的に活用していくことは研究者にとって不可欠となっています。このような背景から、2012 年の若手カンファレンスではビジネス向けに特化した SNS「LinkedIn」に着目し、カンファレンスの企画段階から LinkedIn を活用し、その可能性を探ってきました。若手カンファレンスでは、その報告を含め、SNS の全体的な話題提供、LinkedIn の紹介、SNS 上のビッグデータの活用法という 4 件の発表と、熱心なディスカッションが、リラックスした雰囲気の中で行われました。

②「英語ワークショップ」

2 年ぶりの開催となりましたが、今回は「Adaption of Social Networking」というテーマに対し、すべてのエントリーが海外から行われ、その中から 4 名の若手研究者に発表していただきました。発表者はアジア、ヨーロッパ、アメリカの大学に所属しており、その先端の研究に触れるだけでなく、SNS について世界各地でどのような研究が行われているのか、彼ら・彼女らがどのような SNS をどのように活用しているのか、また、なぜ活用しているのかを、多くの参加者と共有する機会ともなりました。

「若手（BJK）カンファレンス」と「英語ワークショップ」のどちらでも、当日は Twitter を利用して情報発信をおこなったため、アカウント (@SSI_BJK) やハッシュタグ (#ssibjk) で議論の大まかな流れをたどることができるようになっています。

また、「若手（BJK）カンファレンス」と「英語ワークショップ」のどちらも、終了後に懇親会やパワーランチを開催し、海外研究者とのネットワークも形成できました。

若手企画専門委員会では現在、2013 年の学会大会に向けて、魅力的な企画を計画しています。

（文責：服部哲）

2. 研究活動委員会からのお知らせ

（1）若手企画専門部会による社会貢献・若手育成実践の特別企画

テーマ：「失われつつあるコミュニティに、社会情報学は何ができるか？-次世代型・社会情報学プロジェクトの挑戦-

1. 目的

昨年3月11日の東日本大震災は、あきらかに日本社会、その情報化した社会のありようを問い、変えつつある。それと同じ年に、社会情報学会が新生し、あらたな規模と体制で一步を踏み出しはじめたことには、特に社会情報学の次世代を担うものにとって、大きな意味があるはずである。私たちは、そのような社会情報学の次世代を担うべき者の、真剣で、かつ厳しい期待、そして現実社会への貢献に応えるべく、この企画を提案している。

津波は、多くの被災者から、自らが住み慣れた土地＝「コミュニティ」を奪うことになった。もちろん土地が失われても、もう一つのコミュニティ＝「人の繋がり」が残されていた。しかし復興が遅れ、仮住まいが長くなる中で、転居を余儀なくされる人が増え、仮設住宅団地も空き部屋が目立ち始めている。大震災は、コミュニティを二度、喪失の危機に立たせているのである。震災を機に、地域を再生させるべく、一度は奮い立ったコミュニティが、時間に屈し、緩やかに喪失されかねない現実には、私たちに重要な使命を突き付けているだろう。

このような状況に、社会情報学は何ができるのだろうか。

私たちに情報技術と、情報社会が残されている。現在、情報社会の中で「人と人とを繋ぐ」SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）が盛んに注目されており、地域性を重視した「地域SNS」という利用法もある。従来、地域SNSに関しては、まちづくりや地域活性化の観点で議論されることがほとんどであった。しかしSNSの本質は「人との繋がりを支援するサービス」であった。このような「コミュニティの危機」に役に立たなければ、地域SNSに、どれほどの社会的な意味があるといえるのだろうか。

本企画では、被災地の「失われつつあるコミュニティ」に地域SNSを実装・運用し、その結果を分析することにより、地域SNSが被災地の「失われつつあるコミュニティ」の再生に寄与しうるのかを検証する。それは、「失われつつあるコミュニティ」に情報社会がどこまで貢献しうるのかを問う作業であり、さらには、社会情報学のフロンティアに挑戦する試みともなるだろう。

2. 活動内容

地域SNS「河北新報社・ふらっと」を、実験的に被災地コミュニティに導入し、喪失が進むコミュニティの再生をターゲットとした、実証研究と社会貢献活動をおこないます。

河北新報社が運営する宮城県向けのSNS「ふらっと」を活用し、被災地に導入していきます。「ふらっと」は宮城県最大の日刊紙である河北新報が、県内を中心に宮城に関心がある人が参加できるよう、運営しているSNSで、被災地に即したかたちでのコミュニティ形成が可能と思われます。現地自治体・河北新報デジタル編集部の協力の元、SSIの若手研究者が中心となって、被災地にてSNSなどの講習を実施し、ユーザー教育・育成を支援していきます。また、それらの活動を河北新報の記事や観光情報を共有させるなどし、被災地での観光復興にも挑戦する予定です。これらをとおして、山元町の地域ごとの「SNSコミュニティ」を形成し、そこでのコミュニケーション支援をめざします。

3. 構成メンバー

SSI復興情報支援チーム（愛称「山元復興学校」）

代表：正村俊之（東北大学教授・研究活動委員会委員長）

統括チーフ：柴田邦臣（大妻女子大学准教授）

：吉田寛（静岡大学准教授・SSI理事）

：服部哲（神奈川工科大学准教授・若手企画専門委員長）

事務局：松本早野香（サイバー大学専任講師）

ボードメンバー：

庄司昌彦（Glocom専任講師）

坂田邦子（東北大学准教授）

田代光輝（Nifty）

木村雅史（東北大学助教）

牛渡 亮（東北大学文学研究科大学院生）

櫻井みよ子（東北大学情報科学研究科大学院生）

4. 参加者募集！

本企画のために、山元町・河北新報社と協力して企画を実施して下さる方を、SSI 内で募集します！

- ・「地域情報化」「SNS・ソーシャルメディア」「アーカイブ」「AR（拡張現実）」に関心のある方。
- ・SSI 会員、今後入会される方。（学生・院生・若手研究者が中心ですが、当面、年齢制限はありません。）

活動予定期間は 2013 年～2014 年です（延長有）。ご希望・ご質問は、下記までどうぞご連絡ください。ご連絡をお待ちしております。

「社会情報学会・復興情報支援チーム」事務局

吉田寛（静岡大）yoshida@inf.shizuoka.ac.jp、柴田邦臣（大妻女子大）k.shibata@otsuma.ac.jp

（文責：柴田邦臣）

III-5 表彰委員会

表彰委員会委員長 太田敏澄

1. 社会情報学会第二回大学院学位論文表彰候補論文推薦のお願い

社会情報学会では、修士論文ないし博士論文で、社会情報に関する研究として優秀と認められる論文につき、大学院学位論文賞を贈り、表彰します。

つきましては、平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日までの期間におきます学位取得者の大学院学位論文につき、下記により、表彰候補論文のご推薦をお願いいたします。なお、本賞につきましては、社会情報学関連大学院ご担当の先生方にも、正会員となつていただくことを条件に、ご推薦を受け付けております。

なお、表彰区分は、以下の通りといたします。

（1）課程博士論文・・・大学院学位論文賞（博士論文賞）

（2）論文博士論文・・・大学院学位論文賞（博士論文賞）

（3）修士論文・・・大学院学位論文賞（修士論文賞）

また、受賞者には、学会大会において、賞状を授与いたします。

1) 受付期限 平成 25 年 4 月 17 日(水)*必着

2) 推薦形式 学会指定の推薦書、学位論文、同学位論文審査要旨を推薦先アドレスに e-mail 添付書類として送付してください。

3) 推薦先アドレス gakui(アットマークに変えて下さい) ssi.or.jp

メールの件名は「大学院学位論文賞の推薦です。」としてください。

4) 添付書類 ①学会指定の推薦書の PDF ファイル

様式は <http://ssi.or.jp/commit/commit04.html> よりダウンロードしてください。

②学位論文の PDF ファイル

③同学位論文審査要旨の PDF ファイル

（修士論文の場合、論文要旨でも差し支えありません。（1000 字程度））

なお、PDF ファイルでの提出が困難な方は、事務局にご相談ください。

5) 推薦者資格 本学会正会員（入会手続中の方も、ご推薦戴くことができます。この場合、理事会での入会承認を条件として、正会員のお取り扱いを致します。）

6) 問合せ先 （一般社団法人）社会情報学会 事務局

〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 1-12-17

三鷹ビジネスパーク SOHO プラザ A-301

TEL / FAX 0422-54-4633

e-mail:office(アットマークに変えて下さい) ssi.or.jp

応募様式は最終ページに掲載されています。

2. 2012 年社会情報学会大会研究発表優秀賞受賞者

2012 年 9 月 14・15・16 日群馬大学で開催された学会大会での研究発表優秀賞受賞者の方々です。受賞者の方々の 2013 年 9 月 13・14・15 日早稲田大学で開催される学会大会懇親会に招待する予定です。

向井大誠（電気通信大学大学院 情報システム学研究科）

「主体性のあるリソースで構成する環境適応組織の仕組み」

趙章恩（東京大学大学院 学際情報学府）

「日韓のスマートフォン普及差異比較研究 ―イノベーション政策を事例に―」

村館靖之（東京大学大学院 学際情報学府）

「情報と不均衡の実証分析に向けて」

石原裕規（電気通信大学大学院 情報システム学研究科）

「震災時における Twitter ネットワーク分析」

上野亮（青山学院大学大学院 社会情報学研究科）

「自治体公式 Twitter の利用実態及び発信情報に関する考察」

III-6 国際委員会

国際委員会委員長 木村忠正

【事業報告】

国際会議共催

9 月 4 日～7 日に台北・国立大学で開催された 4th World Congress on Social Simulation (WCSS2012) におけるワークショップ Workshop on Social Media and Simulation in Social Informatics（岡田委員 チェア）を SSI 共催として開催。

ワークショップでは、社会情報学とソーシャルメディア、社会シミュレーションに関連する発表と討論が行われた。国際会議には、全世界から 100 名を超える研究者が集まったが、本ワークショップは、会議全体への貢献が大きいとの評価を得た。これは、SSI 共催が寄与した面があるとともに、参加者に SSI を認知してもらう機会にもなった。

学会 HP <http://www.aiecon.org/conference/wcss2012/>

WS HP <http://www.aiecon.org/conference/wcss2012/workshop.htm>

【国際連携活動報告】

国立台北大学商学院長・方文昌教授との会談

9 月の SSI 全国大会開催時に来日された国立台北大学商学院長・方文昌教授（e-CASE や e-TECH などの社会情報学と関連性の高い国際学会を多数これまで主催されてきた）と伊藤学会長と遠藤副会長が会談する機会を設定。その結果、2013 年度の大会から、台湾の研究組織とも何らかの共催イベント実施を検討することとなった。

III-7 支部報告

中部支部長 和泉 潤

中部支部幹事会報告

10 月 17 日 18 時より、中京大学で開催
議事

- 1 社会情報学会中部支部幹事メンバー
- 2 メディアシンポジウム共催
- 3 中部支部規約

学会本部の支部規約に沿って検討中である。

- 4 2012 年度の総会・講演会

2013年3月11日、又は15日、名古屋大学で開催準備予定である。

5 2013年度の総会・研究交流会

4月に開催予定

IV 2013年度年社会情報学会 (SSI) 学会大会

日時：2013年9月13日～15日

会場：早稲田大学

詳細については、決定次第、学会ホームページおよび学会ニュースでお知らせします。

V 選挙管理委員会

評議員選挙管理委員会 委員長桜井誠一郎

役員候補者選挙管理委員会 委員長桜井誠一郎

現在、評議員選挙・役員候補者選挙にかかる投票を締め切り、今後以下のように進められます。

2013・2014年度学会役員選挙日程

1月1日 選挙公示

1月6日 評議員選挙にかかる立候補の締め切り

1月15日 選挙人名簿（被選挙人名簿を兼ねる）、投票用紙等の発送

1月31日 投票締め切り

2月9日 開票

2月16日 当選人確定

2月18日～3月9日 役員候補者による会長選挙を経て会長および副会長確定

3月16日 第5回理事会で報告

VI 事務局より

VI-1 2012年度一般社団法人社会情報学会事業会計予算及び収支中間報告

(24年12月14日、単位：円)

	予算額	実績	対予算	備考
I 収入				
1 会費収入				
正会員	5,440,000	5,440,000	0	544名×10,000円
学生会員	610,000	290,000	320,000	122名×5,000円（1年未納JASIなし、JSIS18名）
団体会員	200,000	200,000	0	1社4口
団体会員	450,000	450,000	0	9社1口
賛助会員	0	0	0	
2 事業収入	0			
3 寄付金収入	6,166	6,166	0	JASI
4 雑収入				
受取利息		53		
その他雑収入	300,000	38,081	261,919	CiNii (SSI、JASI)、学会誌販売、立替金返金他
当期収入合計A	7,006,166	6,424,300	581,866	
前期繰越収支差額	-6,166	-6,166	0	
収入合計B	7,000,000	6,418,134	581,866	
II 支出				

1 事業費				
和文学会誌発行費	1,220,000	441,760	1,200,000	年 3 回発刊
英文学会誌発行費	420,000	404,200	420,000	年 1 回発刊、査読謝礼、翻訳
会員名簿作成費	0	0	0	
学会賞	250,000	170,385	79,615	学会賞副賞、受賞者大会参加費・懇親会費
委員会運営費				
研究活動委員会	250,000	250,000	0	
学会誌編集委員会	150,000	150,000	0	
総務委員会	100,000	0	100,000	
表彰委員会	100,000	100,000	0	
国際委員会	100,000	100,000	0	
渉外委員会	100,000	100,000	0	
将来委員会	100,000	100,000	0	
支部助成費	230,000	160,000	70,000	中部 九州 中国四国 東北 北海道 関東 関西
部会助成費	0	0	0	部会
関連学会費	68,000	60,000	8,000	横幹連合、社会学系コンソーシアム、『学術の動向』
印刷費	100,000	0	100,000	
学会大会補助費	100,000	88,000	12,000	企画委員会旅費×2 会
雑費	0	0	0	
2 管理費				
会議費	50,000	49,612	388	会場費他
理事会旅費交通費	600,000	181,000	419,000	理事会 3 回交通費
通信運搬費	300,000	242,979	57,021	切手、メール便、電話
印刷費	200,000	0	200,000	会議資料
消耗品費	200,000	181,770	18,230	トナー、封筒、用紙他
事務局賃貸料	408,000	264,643	143,357	@29,800 円×12 ヶ月 @4,000 円×12 ヶ月
業務委託費	1,620,000	1,620,000	0	
臨時雇用賃金	0	0	0	
雑費	200,000	44,865	155,135	交通費・振込手数料他（選挙管理費として支出予定）
法人税	70,000	5,556	64,444	市税、都税、所得税
3 予備費				
予備費支出	120,000	0		
当期支出合計 C	7,036,000	4,714,770		
当期収支差額 A-C	-29,834	1,709,530		
次期繰越収支差額 B-C	-36,000	1,703,364		

* 次年度繰越金

郵便局振替口座	郵便局総合口座	三井住友銀行	合計
778,000	864,874	35,528	1,703,364

VI-2 会員の状況

12 月 14 日現在、会員総数 702 名。

名誉会員 7 名、正会員 630 名、学生会 55 名、団体会員 10 団体、賛助会員 0 団体

VI-3 会費納入状況（納入率）

正会員 91.1%

学生会員 92.70%

団体会員 100%

VI-4 会員入会（10月1日～12月15日）

学生会員

佐藤美樹代 山口大学

文 健 神戸大学

丸小拓将 札幌学院大学

正会員

植田一博 東京大学

木村雅史 東北大学

堺 真良 (株)ドワンゴ

遊橋裕泰 (株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ

田名部元成 横浜国立大学

VI-5 教員公募

1. 静岡大学大学院情報学研究科教員公募

1)募集人員 講師 1名

2)所 属 情報学研究科

3)着任時期 平成25年9月1日以降のできるだけ早い時期

4)専攻分野 都市・地域政策論（情報社会の現状分析を踏まえて、都市・地域・コミュニティの課題・政策・計画・歴史等に関する実証的な研究を、政策提言的な視点を持って行っていること）

5)資格 (1)博士の学位を有する者またはそれと同程度の業績を有する者

(2)大学院の教育指導または研究指導を担当できる者

(3)主に以下の授業科目を担当できる者

①学部 : 都市・地域政策論、都市・地域政策論演習、コミュニティ発展論

②大学院 : コミュニティデザイン特論、もしくは情報政策特論

③教養科目: 新入生セミナー、個別分野科目、学際科目

※男女共同参画を推進する静岡大学の「ビジョンと戦略」を重視し、評価が同等の場合は、女性の研究者を優先します。

6)応募書類 (1)履歴書

(2)研究業績リスト

(主要な業績3点に○印をつけ、その3点について100字程度の概要を記すこと)

(3)著書・論文の別刷またはコピー

(4)教育・研究・運営・社会貢献に関する抱負(2000字程度)

(5)応募者に関する所見を求め得る2名の方の氏名、連絡先、電話番号

7)応募期限 平成25年4月25日(木)必着

8)書類送付先 〒432-8011 浜松市中区城北3-5-1 静岡大学大学院情報学研究科長 宛
(封筒に「情報学研究科(都市・地域政策論)教員応募書類」と朱書きし、簡易書留で郵送すること。応募資料返却用の封筒を切手貼付の上同封すること。)

9)問い合わせ先 〒432-8011 浜松市中区城北3-5-1

静岡大学情報学部 藤井史朗

電話 (&FAX) 053-478-1522 E-mail fujii@inf.shizuoka.ac.jp

本研究科の構成、研究内容、教育内容等については、学部ホームページをご覧ください。

<http://www.inf.shizuoka.ac.jp>

☆なお、静岡大学情報学部の教員は、平成 25 年 4 月 1 日より、静岡大学大学院情報学研究科の所属となります。